

冬期講習会の学習内容とポイント

第1回	物語・小説（1） 表現技法／和語
第2回	物語・小説（2） 手紙文の約束事／慣用句
第3回	説明文・論説文 単語の学習（助動詞・助詞）／外来語
第4回	随筆文 接続関係／三字の熟語・四字の熟語

冬期講習会は2学期の復習が主な内容です。5年生後半になると、説明的文章・文学的文章のいずれにおいても、「意味段落分け・場面分け」「要旨・主題」等、文章全体を見渡す視点が必要な設問が増えているので、冬期講習会でも重点的に扱います。

また、第4回の授業では、『予習シリーズ5年下』第17・18回を扱います。

【学習のポイント】

記述力の向上を図りましょう！！

講習会では、通常授業より時間が若干長い分、記述問題にもじっくり取り組んでいきます。記述力向上のためには、「自力で書けるようになるまで書き直し続ける」ことが何よりも大切です。



第1回	力学
第2回	電流
第3回	光と音
第4回	化学変化

冬期講習会の授業では理論系単元を中心に、宿題では授業の復習にあたる演習と、人体・環境・大地・太陽などの知識系単元の演習を行っていきます。理論系単元の実力を向上していくためには、しっかりと腰を据えて問題と向き合っていく必要があります。この冬期講習会を通じて、問題を解き進めるための初動にあたる処理方法や、典型的な問いを解き進めるためのポイントを再確認していきます。発展的な内容であっても、基礎的な解法を組み合わせていくことで正解までの道筋が見えるようになることがほとんどです。6年生に向け、まずは基礎的な解法を定着させていきます。

【学習のポイント】

表やグラフを使った計算問題を得意に！

冬期講習会では化学・物理分野の計算問題を中心に演習を行います。特に「水溶液の性質」「電流のはたらき」に関する単元は重要になります。表やグラフを使った問題に強くなることは、組分けテストばかりではなく、入試でも大きな武器になります。積極的に取り組んで、得意な単元にしていきましょう。



第1回	和と差・数の性質
第2回	割合と比
第3回	立体図形(シリーズ⑦第17回範囲を含みます)
第4回	速さ(シリーズ⑦第18回範囲を含みます)

冬期講習会では『予習シリーズ5年(下)』第11回以降の内容を復習するとともに、「いろいろな速さ」の先取り学習を行います。「いろいろな速さ」の中には、流水算、通過算、時計算など、様々な内容が含まれ、さらに問題によっては2学期に学習してきた「比」が絡んできます。「速さ」は入試においても多くの受験生が苦戦する受験算数の「要」ともいえる分野です。もちろん小6でも繰り返し扱っていきますが、この機会に、まずは基本的な考え方をしっかりとマスターしておきましょう。

【学習のポイント】

正確な図・使える図を描きましょう！！

立体図形、時計算・通過算、容器と水量など、5年生の締めくくりの単元は、どれもものの動きや変化をとらえることが大切なものが中心です。その中でも必要なことが正確な図を描くことです。メモ書きのように図を描いたり、イメージするために図を描いたりするのではなく、問題を解くために必要な図を描きましょう。よって、図は大きく、丁寧に描くことを心がけましょう。



第1回	鎌倉時代～安土・桃山時代
第2回	江戸時代①
第3回	江戸時代②～明治時代①
第4回	明治時代②～大正時代

冬期講習会では、2学期に学習した歴史分野、特に鎌倉時代以降の歴史を中心に復習します。地理分野の学習では一つひとつの知識がそれぞれ独立していることが多いのですが、歴史分野では「原因→結果」の関連性をしっかりと学習しなければ、頭の中でそれぞれの知識がバラバラになってしまい、流れとしての知識の定着が難しくなります。そして、関連付けがうまくできるようになれば、より上手に覚えられるようにもなります。冬期講習会では前述のことをふまえながら歴史分野の知識の定着を図ります。

【学習のポイント】

歴史を縦と横から学習しましょう！

上記のように歴史は「原因→結果（縦のつながり）」が重要で、しかし、まず「問われている内容の時（時代）」を特定しなければ歴史の問題は解けません。例えば「二毛作が始まる（鎌倉時代）」「二毛作が広がる（室町時代）」のような各時代を特定する言葉が重要になります。頭の中に時代ごとの引き出しをつくり、そこに各時代の特色を示す言葉をまとめて（横の整理）おきましょう。そこから時の流れ（縦の整理）に入ります。

